

## ベスト8・青年委員長特別賞

# 未来を創る ～減築で生まれるセントラルパーク～

富山県 | 富山県立富山工業高等学校 選手…2年生2名[男子2名]



コンパクトシティ第1号の富山市。

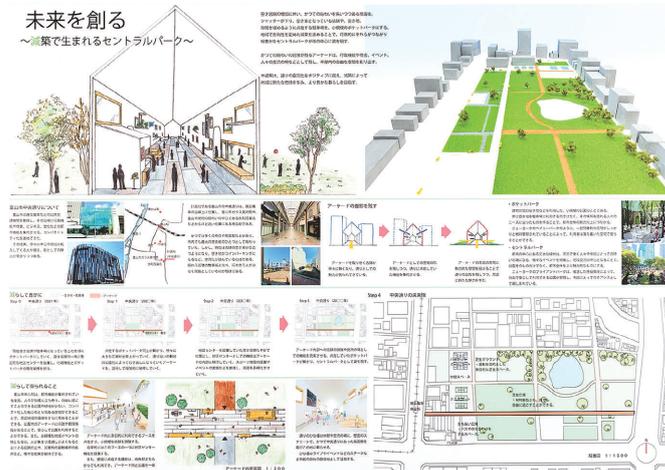
綺麗な街並みになってきている中、人口減少によりさらなる変化が必要と高校生たちが考えた計画で、減築という手法を使った提案は今回の中で唯一無二の存在だったと思っている。

アーケードのまわりの空き店舗や空き家を壊し、点在している機能をアーケードの中に集約していくという計画。結果、アーケードのまわりは、綺麗な公園となり、新たな人々に愛される空間ができるのではという提案である。

この提案の時系列も的確である。おおよそ10年スパンで富山市中央通りの減築計画を考えて、2030年代以降の完成をめざす計画である。

個人的には、都市計画は30年スパンくらいで計画すべきと考えているため、勝手にゴールを2040年代とらえて読み解いている。コモンズ協定などを使うと本当にできそうな計画であり、訪れたことがある富山市の街並みの変化を頭の中で描くことができた。

惜しかったのは、アーケードの形が模型や図面ではっきりとしないため、建築的な提案がイメージしにくいこと。スキームがしっかりとできて



いるだけに、建築的提案がしっかりしていたら、より上位を狙えたであろう。(稲見)

## ベスト8・女性委員長特別賞

# 風が流れ、文化の流れを受け継ぐ

香川県 | 香川県立高松工芸高等学校 選手…1年生12名[男子9名、女子3名]



香川県の瀬戸内海にある小豆島の産業として醤油があり、醤油蔵や木桶はこの地域の町並みとして馴染み深い。近年少なくなった木桶を守ろうと、木桶職人復活プロジェクトも行っている。そのテイストを用いた地区センターとした。

建設地は路地の先の山の斜面とし、その路地に入って行くと登り窯のような建物が見えてくる。中に入ると醤油蔵の中に入ったかのような。この地域の風の流れを考えた自然換気と、斜面を利用したスキップフロアによる縦の変化でゆるくゾーン分けしたプランは、奥へ奥へと行ってみたくなる。緑側により、内と外とを繋ぐ領域を設けている。ここに外部の斜面との関係を建物に取り込むと、もっと周囲の自然と建物が一体となったのではないかな。

残念なところは、バリアフリーの視点が抜けているところだ。エレベーターの設置や外部斜面から室内に入ることも考えると良かった。風が、天井方向だけではなく、後方へも抜けて行くような開口があれば、利用する人の流れをもスッと一本軸が通ったと思う。しかしながら、小豆島らしい魅力的な地区センターになった。(本間)

